

ゼロカーボン社会を実現するには電力供給でネットゼロカーボンを達成する必要があり、そのためには水素発電へのシフトが欠かせない。地球の未来の持続性を可能とするのは水素発電の技術にかかっていると見てよい。三菱重工は水素を燃料とする自家発電用のエンジンの開発を進め、2026年以降に製品化すると発表した。このエンジンを搭載した発電機を電力の必要な場所に設備し、運搬が容易とされる水素をその場所に運べば、実需地で必要量の電気をつくるのが可能となり発電や送電に伴うロスをなくすることができる。三菱重工の取り組みについては、<https://power.mhi.com/jp/special/hydro>